

今年も暑い夏がやってきました。皆様、いかがお過ごしでしょうか？

SCIXでは、男子、女子共に、それぞれの目標を目指して、練習に取り組んでいます。合言葉は「神戸からオリンピックへ」。熱戦を展開中のロンドン五輪にも負けない、熱い、熱い気持ちを持って、選手もコーチも奮闘中です。

***** Sports Community & Intelligence Complex *****

【第2期「SCIX近畿セブンズアカデミー」女子選手セレクション】

■ 2012年4月22日（日）灘浜グラウンド

第2期目のセレクションとなったこの日、前回は上回る計52名（中学生14名、高校生28名、一般10名）が、大阪や京都、奈良からも参加してくれました。まず、SCIX理事の美齊津氏から「今回選ばれたら、月1回の練習会のほかSCIXの練習にも参加してもらい、続くナショナルアカデミーに挑戦し、日本代表の選考対象になれるようになってもらいたい」と今後の流れを説明。さらに日本代表としてオリンピックに出ることができるよう、多くの方が協力していくので、厳しい練習に耐え、体力・精神ともに世界と戦えるようになってほしいという話があり、みな、引き締まった表情で頷いていました。その後、SCIX平尾理事長が、そんな彼女たちを見て、「今後の女子ラグビーの輝ける存在となってほしい」とひと言。また、ラグビー協会女子委員会委員長の熊野氏は、「関西は関東に負けている。ここから変えていきたい」と、このアカデミーでの抱負を述べました。



開会の挨拶の後、一般と中学生、そして高校生の2グループに分かれ、室内練習場での体力測定と筆記に移りました。室内練習場では、立ち幅跳び、懸垂、前屈、30秒上体起こし、握力の測定。特に懸垂は、まだ筋力が発達していない女子選手にとって、1回できればやっとという状態。しかしコーチ陣からは、反動をつけずに上がるようにと酷な指令が出ていました。体力測定に関しては、全体を通して今すぐに代表レベルという目標値には届かないので、どのあたりを合格レベルにするか、コーチ陣にとって、難しい課題が残ったようです。その後、50m走と20mシャトルランの測定へ。開始

してすぐ、これまで止んでいた雨が降り出し、気温も低かったことから、「体が思うように動かなかった」と悔しがっていた選手やシャトルランの途中で足を滑らせてしまう選手もいましたが、悪条件のなか、それぞれが精一杯持てる力を出し切ろうとしていました。また時間が空いていた一般と中学生チームは、甲北高校の財田先生の指導のもと、「コミュニケーションドリル」を行っていました。さらに雨足が強くなってきたため、当初予定していたゲームは中止となり、セレクションは終了。

閉会式では、今村コーチから「状況も悪く、また途中予定変更などもあって思い通りのアクションができなかったかもしれませんが、それでもみんなから可能性を感じました」と挨拶があり、財田先生からは、「近畿の女子は、関東や九州と比べても負けている。ぜひ兵庫から熱を発し、1人でも多くのオリンピック選手を出したい」という熱いメッセージが送られました。途中から本降りになった雨のせいで、皆、びしょ濡れでしたが、その表情からは充実した達成感が伝わってきました。合否にかかわらず、参加者には今後もスキルアップを目指して欲しいと思います。



【SCIXラグビークラブ女子の部】

■ 2012年5月19日（土） 女子日本代表 vs 女子香港代表／秩父宮ラグビー場

「HSBC アジア五カ国対抗 2012 日本代表 vs 香港代表」の前座として開催された「女子日本代表 vs 女子香港代表」。女子日本代表に、SCIX ラグビークラブ女子の部の練習に参加している乾あゆみ選手と齋藤聖奈選手が選ばれ、乾選手は先発で、齋藤選手は後半6分から出場しました。

試合は立ち上がりこそ反則が多く、相手にペースを握られましたが、徐々に落ち着きを取り戻すと、流れは女子日本代表に。FW、BK かかわらず全員が縦横無尽にグラウンドを走り回り、チームが目指す「立ってつなく」ラグビーを展開。終わってみれば、計11トライを奪い、女子香港代表を61-15で撃破しました。

試合後、乾選手は「ノートライに抑えて圧勝しようと言っていたのですが、3トライを奪われ悔しいです。序盤に反則が多過ぎました。ただアタックはすごく良かった。個人としてもチームとしても課題はディフェンスです」と振り返ってくれました。初キャップを獲得した齋藤選手は「今日はずごく緊張しました。これからもっと基本プレーの精度を上げていきたいです」とひと言。最後に7月開催の「アジア女子4カ国対抗」の抱負を聞くと、乾選手は「アジアで最上位のカザフスタンに勝てるよう頑張ります！」と力強く話してくれました。



【SCIXラグビークラブ高校生男子】

■ 2012年5月20日（日） 兵庫県民大会／関西学院大学第二フィールド

SCIX ラグビークラブ高校生の部が唯一参加できる公式戦「兵庫県民大会」が、関西学院大学第二フィールドで行われました。対戦相手は、昨年の同大会で、10-70 という大差で敗れた県の強豪・科学技術高校です。リベンジに燃える選手たちは試合前から気合い十分。「絶対に勝とう！」という山下大輔主将の声で、ピッチに入りました。

SCIX ラグビークラブのキックオフではじまった試合は、互いに好ディフェンスが飛び出し、ゴールラインを死守。意地と意地がぶつかり合う白熱した展開となりました。試合が動いたのは、前半終了間際、相手陣 22m ライン付近のマイボールラインアウトからの攻撃で、相手にターンオーバーされると一気に攻め込まれ、トライを奪われます。前半を0-5で折り返したSCIX ラグビークラブですが、選手たちからは「まだまだこれから！」という声。後半開始早々、相手にPGを決められますが、直後のキックオフをマイボールにすると連続攻撃をかけ、CTB 山下主将が待望のトライをマーク！3点差に詰め寄ります。その後、立て続けに得点を許しリードを広げられましたが、選手たちは諦めることなく、必死に相手に食らいつきボールを奪うと、ゴール前まで迫ります。そして終盤、FW、BK 一体となってボールをつなぎ、インゴールへ。待望の2トライ目が生まれます！試合は残念ながら10-29で敗戦となりましたが、全選手がひたむきにプレーし、心に残る熱い一戦となりました。



試合後、今村コーチ、元木コーチが「山下主将を中心によくまとまり、素晴らしいチームになってくれました。このチームを誇りに思います。今日は見ている人が感動する良い試合でした。本当によくやった！」と選手に言葉をかけ、山下主将は「勝ちたかったけど、これまでやってきたことをしっかり出せた試合でした。みんな、身体をよく張っていたと思います」と胸を張って挨拶しました。

3年生にとってこれが高校最後の公式戦。1、2年生は、来年、先輩たちの悔しさを晴らすと誓っていました。

【第2期「SCIX近畿セブンズアカデミー」】

■ 2012年5月27日（土） 第1回女子セブンズ練習会 灘浜グラウンド

第2期「SCIX近畿セブンズアカデミー」の練習会が、この日からスタートし、第1期生を含む計38名の選手が参加しました。前回のレポートでもお知らせしたように、4月に実施した第2期セレクションには中学生から一般まで、過去最多の52名の参加がありました。可否の選考には兵庫県高体連ラグビー専門部の先生にも加わっていただき、検討を重ねた結果、今年度のアカデミー生については「1回の選考でふるいにかけて、全員練習会に参加してもらいながら、可能性を見て行く」（今村コーチ）という形を採用。ラグビー経験が深く、スキルやフィットネスの強化を目的としたグループをAチーム、他競技からの転向者を含め、ラグビーの基本プレーを学びながらアスリートとしての向上を目指す育成グループをBチームとし、「BからAへの入れ替えをどんどん図る」（財田先生）練習会を実施していくことになりました。

この日は第1期生を含めたAチームが18名、Bチームが19名という構成。中・高校生の中には学校の行事で参加できない選手も何名かいましたが、「本気でオリンピック、日本代表に挑む集団」として、漫然と練習するのではなく、練習会を通して何か一つ持って帰れるように目標を持って取り組んで欲しい。Aチームだからといって驕ることなく、Bチームだからといって臆することなく、高い意識を持ってやっつけていこう！という財田先生の言葉に耳を傾けるアカデミー生の表情は真剣そのものでした。



練習はまず全員参加で、選手の持久力、有酸素能力を測る20mシャトルランテスト（マルチステージ測定）を実施。中高生はテスト明けで運動不足ということもありましたが、ほとんどの選手が基準を上回る記録を出し、コーチ陣は驚きを隠せませんでした。

その後、Aチーム、Bチームに分かれて、ラグビーの練習へ。Aチームは、3人一组でパス練習をしてから、ゲーム感覚を養うために7分ハーフでタッチフットを行いました。またBチームは、ラグビーの基本プレーであるハンドリング、タックルの練習などを実施。そして最後に全

員で、シャトルラン走。2時間の練習のあとだけに、皆、かなり苦しそうな表情でしたが、それでも息が整うと、その顔には一様に笑顔が浮かんでいました。

今回の練習を受けて、今村コーチは、「今日の練習内容が第2期アカデミーの基本だと考えてください。マルチステージ測定も毎回実施しますので、今月よりも来月の数値のほうが向上するように、日々のトレーニングにも取



り組んでください」と総評。財田先生は「今日の自分よりも明日の自分。そういう風に向上できるように、一か月後にはまた成長した姿で集まりましょう」と話し、練習会は終了しました。



【第2期「SCIX近畿セブンズアカデミー」】

■2012年6月24日(日) 第2回女子セブンズ練習会 灘浜グラウンド

第2回目となる第2期「SCIX近畿セブンズアカデミー」の練習会が行われました。参加者は、Aチーム15名、Bチーム15名の計30名。この日は、直前まで、7人制日本代表の関西地区のトライアウトが行われていたこともあり、女子7人制日本代表ヘッドコーチを務める浅見氏が指導を行いました。

練習はまず浅見ヘッドコーチが、女子7人制が何を狙っているのかを説明。香港セブンズでのエピソードなどを交えながら、日本の目指すスタイルについて、熱く話してくださいました。その後、女子15人制代表チーム関西地区トレーナーを務める井上氏の指導の下、ウォーミングアップ。そしてAチーム、Bチームに分かれて本格的なトレーニングへと入っていきましました。Aチームは、ハンドリング練習の後、パス練習、アタック&ディフェンスを実施。浅見ヘッドコーチは、「ハンドリングはチームに帰ってもできる練習を考えました。ハン



ドリングスキルは数をやることで向上しますし、普段の練習でクセのついている選手もいますから、基本を覚え込ませるという意味でも有効だと思います。またパスについてはまだ体ができていない選手も多いので、数多く放ることでパスの能力は伸びると思います。ロングパスは必要なスキルですから、もっと攻める意識をもってスペース能力とともに高めて欲しいですね」と練習の意図とポイントを語ってくれました。Bチームは、グリットを使ったパス練習をはじめ、ボールを持って仕掛けるプレー、3対2、4対3などの練習を行った後、試合形式に近いアタック&ディフェンスの練習を実施。財田先生は「中学生チームはどうしてもボールのあるところ

にみんなが集まってしまうから、メイクラインが遅れる。ポイントができれば、常に3人が残ってラインを引き、ボールをどんどん回して相手のいないところを攻めるようにしよう」とアドバイス。最後にシャトルラントレーニングを行い、第2回練習会は終了しました。



練習後、今村コーチは「今日の練習で、走ることがどれだけ重要か、走らないことには勝てないということが分かって走っている人と、そうでなくただコーチに言われた練習だから走っているという、二通りがいることが気になりました。ただ言われたから走ると、重要性が分かって走るのでは、身に付き方が違うということをしっかり自覚して欲しい。やらされている練習ではアカデミーの意味がない。もっと前向きに取り組む姿勢を見せて下さい」と総評。財田先生からも「今日気になったのは、自分たちが何を狙っているか、トップを目指してやっているという意識がものす

ごく足りないということでした。私はトップを目指すんだ、日本代表になるんだという矢印が自分に向いていない。だから練習中も緊張感が欠けたり、やらされる練習になってしまします。自分の中でどこを目指しているか、もう一度考え直し、最後までやり切れるように、見つめ直して次回の練習会に集まろう！」というお話がありました。アカデミー生の皆さんには、両コーチの言葉を糧に、トップを目指すという気持ちを持って、突き進んでいてもらいたいと思います。



【SCIX 総会】

■6月26日（火）第13回総会

6月26日（火）、三宮・センタープラザ内会議室にて、第13回総会が行われました。平尾誠二理事長による開会の挨拶に続き、会員64名の内、53名（出席者17名、36名の委任状提出）の同意を得て、総会の成立が報告。その後、H23年度の事業・会計収支報告とH24年度の事業計画が発表されました。

H23年度は、これまでの活動を行いながら、東日本大震災被災地支援活動などを実施。東日本大震災被災地支援活動は、宮城県角田市で体育の日に行われている「スポーツフェスティバル in かくだ」のメインプログラムとして、「日本代表選手と遊ぼう！」をテーマに、近隣の津波被災地域の子どもたちを含めて、約250名の小中学生が参加し、元木由記雄コーチをはじめ SCIX ラグビークラブコーチが指導を行いました。また「神戸からオリンピックへ」を合い言葉に活動を進めている“女子ラグビー”、“7人制ラグビー”については、女子ラグビー中学の部から2名が「第10回セブンズアカデミー」に参加、高校の部も、コベルコカップ、全国高校選抜大会など、初めての公式試合に出場するなど、成果が出た1年となったことが報告されました。さらに『7人制ブロックアカデミーパートナー事業』では、「第1回7人制女子ラグビーセレクション」、「第1回 SCIX カップ 兵庫県高等学校セブンズ大会」が開催され、今後、第2回と続いていくことが発表されました。

H24年度は、昨年度の活動を継承しながら、スポーツ振興助成事業と認められず実施を断念した「SCIX スポーツ・インテリジェンス講座」を4年ぶりに開催することが告げられました。

その後、懇親会が行われ、出席者全員に、平尾理事長の近著『理不尽に勝つ』が贈呈され、総会は滞りなく終了しました。



【入会案内(ご参考)】

(会員・会費について)

会員種別		入会金	年会費
正会員	個人会員	—	5,000 円
	団体会員	1 口 100,000 円 (何口でも可)	100,000 円
サポーター	個人会員	—	2,000 円
	団体会員	1 口 50,000 円 (何口でも可)	50,000 円

(お問い合わせ)

SCIX事務局 〒651-8585
神戸市中央区脇浜町2-10-26
t e l : 078 (261) 4046
e-mail : office@scix.org

SCIXは、みなさまのボランティアな支援によって支えられています。

【発行人】SCIX事務局 今村 順一

【編集】山本 暁子

【発行元】SCIX事務局

〒651-8585

神戸市中央区脇浜町2-10-26

t e l : 078 (261) 4046

e-mail : office@scix.org